

「木村秀政文庫」の資料整理の方法とメタデータの作成方法 博物館における資料整理方法の現状と提案

The Documents organized way of "the Hidemasa Kimura library" and future problem

The present conditions of the organize documents in the museum and suggest

原千賀¹, 安福紘大¹, 梅孝治¹, 兵藤花菜香², 井手英誠², 今西諒太³, 朝日学², 登川幸生⁴, 伊豆原月絵⁵

Chika Hara¹, Kodai Yasufuku¹, Koji Toga¹, Hanaka Hyodo², Eisei Ide², Ryota Imanishi³, Manabu Asahi², Sachio Togawa⁴, Tsukie Izuhara⁵

Abstract: This paper we show the present conditions of the organize documents in the museum and suggest the organization method. We performed the organize documents using the museum document during the class of the curator course and a vacation. From the results we made the metadata of the database and suggest the classification to be able to perform the making of the list easily which is necessary for documents preservation and the display. From the making of the database to the preservation of the documents, we suggest the way you treat documents and suggest the way of the organize documents so as not to damage more than now.

1.はじめに

博物館にとって資料の所蔵数を把握し、目録を作成することは資料の保存をし、展示を行なうために重要なことである。そのためには資料のデータベース化を行い、展示に生かしていく必要がある。本年度前期の学芸員課程の「博物館資料論」の授業では、日本大学理工学部科学技術史料センター(以下、cst ミュージアム)の収蔵品である「木村秀政文庫」を用いて資料整理方法を習得した。

木村秀政(以下、木村)は、YS-11 等の現在にも語り継がれる有名な航空機を設計製造し、日本大学理工学部の名誉教授である。平成 16 年に寄贈された段ボール 7 箱分におよぶ「木村秀政文庫」は、これまで段ボール箱に乱雑に詰めて放置されている状態であり、カビやシミが見られ、保存のための処理が急務であった。また、資料数および、資料の概要などが不明確であったことから、学芸員課程の有志学生が、引き続き夏休みを利用し、スキャンやデータベース化を行い、俯瞰データを作成し、適切な分類方法で目録を作ることを目的とした資料整理の方法とメタデータについて研究を行った。

2. 博物館資料の活用

資料は、経年劣を鑑み、早急にデータベース化し保存することが必要である。しかし、博物館には何万点もの資料が存在し、その内容は専門性が問われ、資料の種類も多いため、現状では資料の専門の学芸員の人員数が不足し、専門性の高い、学芸員が全てを整理することは、難しい。そのため、現在の博物館では資料数が膨大で、全ての資料を整理できていないという現状がある。そこで、博物館では、アルバイト等を雇い、一度に多くの資料をデータベース化する方法を用いる

が、その資料の価値は、内容を理解できなければ、分類方法も異なってくる危険性もあり、貴重な資料の脱落としをすることも考えられる。

本論では資料の整理をするにあたり、どのような方法が適しているのかを、博物館資料の整理を行い、データベース作成についての検討を行う。

3. 整理方法

最初に、資料全体を把握するために資料室内に保管されていた「木村秀政文庫」を Figure 1 のように全て出して並べ、俯瞰し、どのような種類の資料が有るかを把握し、分類を行うための作業をした。

資料の俯瞰を行う際にはメタデータが必要になる。しかし、cst ミュージアムには目録がないため、Table 1 のようなメタデータを作成した。

今回の資料整理では、資料について詳しい人航空宇宙工学科の学生が資料を見て、その資料について分かることを付箋に全て書き出し、記録し、情報をデータ化した。メタデータの項目だけでなく、資料の重要な点や資料の内容等も読み込み付箋に書き、同時進行で Excel にまとめることでデータベース化を行った。

資料の中には、青焼き図面や、紙焼き写真は時間が経つと消えてしまうものであるため、早急な保存が必要である。事実、すでに 60 年以上経った「木村秀政文庫」の青焼き図面は Figure 2 のように青さが薄れてきている。これ以上、資料が傷まないようにするには、なるべく空気に触れず、湿度、温度管理をすることが大切である。そのために今回の資料整理では、資料全てに番号を付け、全資料の写真撮影を行い、大まかな資料内容を把握できるようにし、中性紙箱に収めた資料を開けずして、中の資料が分かるようにした。

1: 日大理工・学部・航宇 2: 日大理工・学部・物理, 3: 日大理工・学部・電気, 4: 日大理工・教員・海建, 5: 日大理工・教員・一般

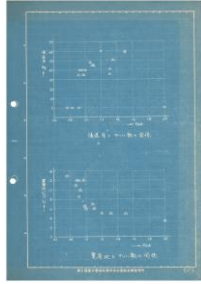


Figure 1. Arrangement of documents **Figure2.**Blueprint drawing

写真撮影やスキャンデータ作成を行い，データベース化が終わったら，Figure 3 のように薄葉紙で包み保存した。薄葉紙は中の湿度を最良の状態に一定に保ち保存することが可能である。資料番号や資料内容が書いてある付箋を包んだ薄葉紙につけ，中性紙箱に入れ，Figure 4 のように資料室に保管した。本来ならば，青焼き図面は全てスキャンし，データベースにし，資料を確認できる形にする必要がある。しかし，今回の資料整理で青焼き図面は大量にあることがわかり，全てをスキャンしてデータ化することは困難であると判断し，今後の課題とした。

また，賞状は今後時間が経つと消えてしまうと判断し，今回スキャンしデータベースにした。

学芸員課程では，今後の資料整理として，引き続き目録作りを続け，データベース作成を行い，全資料を誰でも見られる形にしたいと考えている。目標は「木村秀政文庫」の一部を常設展示，もしくは特別公開などの期間を設け，公開したい。

4. まとめ

今回の資料整理によって，今まで分からなかった「木村秀政文庫」の全容を把握できた。また，資料総数は213点あり中性紙箱30箱分に分けられた。中には航空機の模型資料があった。この資料は中性紙箱には入らなかったため，薄葉紙に包み他の資料とは別に保存した。今回の資料整理により，データベースの作成，資料の撮影と最適な状態での保存が実現した。また，資料整理により木村の考え方，人柄を知ることができた。「木村秀政の関連資料」は今後も寄贈されるであろう。木村の手がかりを見落とさないために，1つ1つ丁寧な資料整理が必要であると言える。学芸員課程では今後も継続して資料整理を行い，資料の保存に努めていきたい。

5. 参考文献

[1] 浜田弘明：「博物館学資料「鶴田文庫」の整理と公開化作業」，pp.12, 2009,

Figure 3.How to Wrap of Thin paper

[2] 小島浩之：「資料保存の考え方 -現状と課題-」，情報の科学と技術，vol.60, No.2号，2010
 [3] 「総合調査結果集計・分析(2/2)」，平成20年度 日本の博物館総合調査研究報告書，pp.86



Figure 4.resource reservation of a reference room

Table 1.List of Classification

分類	備考
タイトル	
時代	統一して，西暦で記入。
材質 ・紙 ・紙焼き写真 ・ネガフィルム	航空機の写真だけでなく，木村本人が写った写真や，日本大学勤務時代の学生との作業風景の写真等が含まれている。ネガフィルムは専用の機器を準備し，今後データでの整理を課題とした。
ジャンル ・学会誌 ・報告書 ・その他	報告書の中には木村が行った，航空機関係の実験結果の報告書や，企業勤務時代の航空機事故の調査報告書等を含む。学会誌の中には，同業者から贈られたものもあり，木村宛てにサインが入っている。
形態 ・冊子 ・バイダー ・製本 ・クリアファイル ・紙 ・書籍	容易にページの差し替え，取り外しなどできないようなものを冊子に，容易にページの差し替え，取り外しなどできるものをバイダーとした。また，様々な資料が一つになっていたバイダーは，本人が論文などの執筆の為に収集された資料と思われるため，中身を分けるのではなく，一つにして保存した。今後資料整理が進行した際に，木村がその資料をどのように使用したのか紐解く手掛かりにする。
大きさ	計測は誰でも出来ることであるため，今後の課題とした。
頁数	計測は誰でも出来ることであるため，今後の課題とした。
図面有無	青焼き図面，図面のコピー等が含まれる。
直筆有無	木村本人や教え子，同業者のものを含む。
その他	収録月，収録号，写真，図面，青焼き等の詳細を記入。